

東京海上日動火災 持株会社

ミレアホールディングス 新社名・東京海上ホールディングス

株主総会 報告

6月23日、東京海上日動火災の持株会社ミレアホールディングス（本総会から社名変更し東京海上ホールディングス）の株主総会が開かれました。儲けのための外勤社員切捨てとたたかう全損保日動外勤支部は、全損保本部、OB等とともに30人を超える代表団を結成して総会に参加しました。私たちは、新たに明らかになる100億円を超える「保険料取り過ぎ」に関する石原会長はじめとした経営陣の刷新、増加する「お客様の声」の情報開示、小規模代理店に冷たい代理店政策の改善などとともに、判決を守らず、外勤社員制度廃止を強行する経営者の責任を全力で追及しました。私たちのほかにも多くの株主が質問に立ち、「石原会長が『不払い問題』後の社内体制の整備に専念せず日本航空などの社外取締役役に就任するのはどういうことか」、「どの会社より法令順守が求められる東京海上日動が、コンプライアンスに対する意識が薄いのは問題だ」、「なぜ株主総会の報告書に石原会長の写真が写っているのか。削除すべきだ」など、あらゆる角度から経営責任が追及されました。

過ちの責任とらぬ会社に未来はあるのか

しかし、隅社長はじめ経営陣は、納得いく説明がほとんどできませんでした。「取り過ぎ問題」については、「反省しています。再発防止態勢をつくります」と繰り返すばかり。「不払い問題とは、お客から金だけとって、支払いはしないということ。行政に届け出た保険内容どおりに支払わないという重大問題。その重大さをわかっていないのではないか」、「経営者のもっとも重たい責任の取り方は退陣。こんな重大問題でやめないならどんなときにやめるのか」との質問にも、「反省と再発防止」ばかり繰り返す経営陣に失笑がこぼれました。これでは、過ちを犯しても、誰も責任を取らないことと同じことです。過ちの責任を取らず、だからなんども過ちが繰り返される。この会社に未来はあるのでしょうか。

いつまで繰り返す 「反省と再発防止」
紛糾の二時間半 怒号の中で審議打ち切り

抗議先

東京海上日動火災保険株式会社

〒100-8050 東京都千代田区丸の内一丁目2番1号

電話 03-3212-6211

全日本損害保険労働組合

全損保日動外勤支部

判決守り外勤社員切捨てをやめろ 組合から奪った200万円を返せ

東京海上日動

ミレアホールディングス株主総会で明らかになった3つの根本問題

一番正しいのは自分達。判決や命令の方が間違いという尊大さ

外勤社員制度廃止では東京地裁から、労働組合差別では東京都労働委員会から断罪された東京海上日動。株主総会では、判決を守って、解決の決断をはかるよう要求されました。しかし、結局は、「係争中」と繰り返し、判決も命令も間違いだといわんばかり。組合差別については、命令で明白に事実認定されているのに、「差別などやった覚えがない」という始末。裁判所や労働委員会は間違い、一番正しいのは東京海上日動という姿勢がますます明らかになりました。「不払い問題」で重たい行政処分を受けても、引責せず、今も居座る石原会長はじめとした経営陣。金融庁は間違いだとでも言うのでしょうか。

これではグローバル競争失格。驚くべきCSRの認識欠如

総会では、労働者の雇用や権利を守る労働CSRは、最も重要な企業の社会的責任の一つ。かつて野村ホールディングスは、男女差別事件を起こして東京地裁で敗訴し、SRI投資コンサルティング会社から投資不適格とされたことがあります。総会では、「判決、命令を守らず雇用破壊、組合差別を続ける東京海上日動の現状は、それよりひどい。その損失をどう計算し、責任はどう取るのか」の質問。これに対し経営者は、「それは他社の事例」、「仮定の話にはお答えできない」「外勤社員は損益が悪い」などと、危機感ゼロのトンチンカンな回答。隅社長は、質問者に「労働CSRは大事と認識しているか」と追及され、やっと「大事だ」と回答。しかし、「だったら、判決を守り解決を決断せよ」と追及されると「係争中」とこたえる始末。CSRを大宣伝する東京海上日動の経営陣の、驚くべき認識欠如が露呈されました。これでは、グローバル競争失格。株主はじめステークホルダーの利益は守れないのではないのでしょうか。

主体的な労働争議の解決を放棄。問われる自己解決能力

いま、東京高等裁判所では外勤社員制度廃止について、和解勧告がされています。誰もが望む労使紛争の解決。その最大、最後のチャンスといっても過言ではありません。総会では、トヨタやマクドナルドにならって、自主的に解決をはかるよう要求されました。また、「このような無責任で、判断できない経営では、裁判で負けて最高裁で争うようなことをしかねない。ここで名誉ある撤退をすべきではないか。」とも追及されました。しかし、隅社長は、解決を確約することはありませんでした。敗色濃厚の裁判。敗訴したら一体、誰が責任を取るといのでしょうか。最高裁まで争うような真似をすれば、世界中からの笑いものになります。

株主総会の質問を真摯に受け止め、自主的な紛争解決に踏み出せ

株主総会の模様は近日中にホームページに掲載します。ぜひご覧下さい。

<http://www.niu.or.jp/nichidogai/>
<http://www.geocities.jp/nichidogaikin/>もご覧下さい

全日本損害保険労働組合
全損保日動外勤支部

東京都中央区新富1-6-1京橋第5長岡ビル4階
03-3551-7131